令和5年度

少年の主張
埼玉県大会

私たちの
熱い思いを
届けます！

埼玉県マスコット
「コバトン・さいたまっち」

主催：埼玉県・埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議・
独立行政法人国立青少年教育振興機構

協賛：Humming Bird未来基金・埼玉キワニスクラブ・公益財団法人埼玉ＹＭＣＡ・
羽石電氣工業株式會社・森乳業株式会社・株式会社埼玉りそな銀行・
株式会社テレビ埼玉・株式会社埼玉新聞社

彩の国
埼玉県

大会発表者の皆さん

小学生の部

オマー　ビラル　モハメドさん

酒井（さかい）　千鶴（ちづる）さん

田中（たなか）　まり奈（な）さん

福井（ふくい）　遥（はるか）さん

山内（やまうち）　一帆（いちほ）さん

中学生の部

相澤（あいざわ）　心花（ここな）さん

金嶋（かねしま）　椿（つばき）さん

菊地（きくち）　彩莉（あいり）さん

金（きん）　洋平（ようへい）さん

村上（むらかみ）　滉歩（あきほ）さん

高校生・一般の部

浅田（あさだ）　璃子（りこ）さん

工藤（くどう）　真尋（まひろ）さん

佐藤（さとう）　唯花（ゆいか）さん

山口（やまぐち）　耕平（こうへい）さん

はじめに

皆さん、こんにちは。青少年育成埼玉県民会議、埼玉県、埼玉県教育委員会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催で、去る８月20日に42回目となる「少年の主張埼玉県大会」を開催しました。

今回の大会には、39,183名の応募があり、その中から選ばれた14名が、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案などを自らの言葉で、堂々と発表されました。発表者の皆さんにとって大変貴重な経験になったことと思います。

発表された主張には、女性活躍、不登校、介護問題、環境問題、共生社会の実現など埼玉県にとって喫緊の課題である様々なテーマが取り上げられていました。何気ない日々の生活や人との交流の中で感じたことが、大きな社会の課題に繋がっていることに気付き、まさに自分事として、しっかりと主張されたことを大変心強く思いました。また、全ての主張に、他者への思いやりが感じられたこともとても印象的でした。

埼玉県は、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会である「日本一暮らしやすい埼玉」を目指しています。あらゆる人が生き生きと暮らせる社会を実現するためには、互いに認め合い、支え合うことが重要です。大会に参加された皆さんには、この大会での経験を通じ、他者を思いやる心と自らの考えを相手に伝える力を更に高め、皆さんの夢や希望に向かって、果敢に挑戦を続けていってほしいと思います。皆さんの活躍を大いに期待しています。

この冊子は、大会で発表していただいた14名の主張を作品集としてまとめたものです。

是非多くの方々にお読みいただき、青少年の夢や希望、熱き思いに共感していただければ幸いです。

結びに、日頃から青少年の健全育成に御尽力いただいている皆様に感謝申し上げますとともに、大会の開催に当たり御協力をいただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

令和５年12月

青少年育成埼玉県民会議会長
埼玉県知事　大野　元裕

目次

・はじめに（青少年育成埼玉県民会議会長　埼玉県知事　大野　元裕）
・大会の模様…… １ページ

（小学生の部）
最優秀賞　「二つの母国のために」
三郷市立彦糸小学校 ６年　オマー　ビラル　モハメドさん… ３ページ
優秀賞　「一杯の給食おかわり運動」
さいたま市立大砂土小学校 ４年　福井（ふくい）　遥（はるか）さん …… ４ページ
優良賞　「いつでも前向きに」
ふじみ野市立西小学校 ６年　酒井（さかい）　千鶴（ちづる）さん …… ５ページ
優良賞　「優しい『心』の形」
春日部市立武里南小学校 ６年　田中（たなか）　まり奈（な）さん …… ６ページ
優良賞　「地球というチーム」
加須市立種足小学校 ６年　山内（やまうち）　一帆（いちほ）さん …… ７ページ

（中学生の部）
最優秀賞　「私のおばあちゃん」
本庄市立本庄東中学校 ３年　村上（むらかみ）　滉歩（あきほ）さん …… ８ページ
※村上 滉歩さんは、第45回少年の主張全国大会努力賞を受賞しました。
優秀賞　「この風を誰かに伝えたい」
小川町立東中学校 ２年　菊地（きくち）　彩莉（あいり）さん …… ９ページ
優良賞　「私の夢ができるまで」
春日部市立武里中学校 ２年　相澤（あいざわ）　心花（ここな）さん …… １０ページ
優良賞　「『温故知新』」
日高市立高萩中学校 ３年　金嶋（かねしま）　椿（つばき）さん …… １１ページ
優良賞　「翔んで『彩の国』」
坂戸市立浅羽野中学校 ３年　金（きん）　洋平（ようへい）さん …… １２ページ

（高校生・一般の部）
最優秀賞　「社会を視る高校生の目」
筑波大学附属坂戸高等学校 ３年　工藤（くどう）　真尋（まひろ）さん …… １３ページ
優秀賞　「大切なものを守るために」
埼玉県立豊岡高等学校 １年　佐藤（さとう）　唯花（ゆいか）さん …… １４ページ
優良賞　「日本の環境対策について」
埼玉県立和光国際高等学校 ２年　浅田（あさだ）　璃子（りこ）さん …… １５ページ
優良賞　「絶滅を選ぶな－未来の地球のために」
早稲田大学本庄高等学院 １年　山口（やまぐち）　耕平（こうへい）さん …… １６ページ

・特別賞の紹介…… １８ページ
・講評（株式会社埼玉新聞社編集局長　砂生　敏一氏）…… ２０ページ
・大会の概要…… ２１ページ

大会の模様

開会の挨拶
（青少年育成埼玉県民会議 前島富雄副会長）

会場の様子

発表の様子（小学生の部）

発表の様子（中学生の部）

発表の様子（高校生・一般の部）

審査の様子

ミニコンサート
（アンサンブル ラフレーズ）

講評
（株式会社埼玉新聞社　砂生敏一編集局長）

最優秀賞【知事賞】の授与
（青少年育成埼玉県民会議　柿沼トミ子副会長）

優秀賞【教育長賞】の授与
（埼玉県教育局　青木孝夫県立学校部長）

優良賞【青少年育成埼玉県民会議会長賞】の授与
（青少年育成埼玉県民会議　芦澤吉一副会長）

記念写真

（小学生の部　最優秀賞）

「二つの母国のために」

私はこの大会に参加して、色々な人の発表から様々な考えを知り、自分の世界を広げることができました。今後は友達や周りの人の声に耳を傾け、仲間を思いやりながら、夢に向けて努力していきます。

三郷市立彦糸小学校 6年
オマー　ビラル　モハメド

ぼくはエチオピアで生まれ、小学校５年生の時に家族で日本に来ました。初めは友達がいなくてさびしかったけれど、学校には世界中から集まった友達がいたので、すぐに仲良くなることができました。

ぼくの友達は、全員外国人です。みんなアフリカやアジアの色々な国から日本にきています。文化や習慣が違う日本での生活は、慣れないことばかりで、初めは食事や学校生活で戸惑うことばかりでした。特に日本での生活で一番困ったことは、日本人の友達を作ることでした。日本語がわからないことや、英語と日本語でのコミュニケーションの違いがあって、日本人と友達になることがとても難しかったです。

ある時、お父さんが近所にある日本語教室に行こうとぼくをさそってくれました。そこでは日本のボランティアの人たちが、分かりやすく日本語を教えてくれます。ぼくが理解できるまで何度もあきらめずに教えてくれるので、少しずつ日本語が分かるようになりました。それがきっかけで日本人の友達も増え、毎日を楽しく感じるようになりました。

今ぼくは、多くの人達に助けられて生きています。それは、一歩踏み出す勇気と、感謝する気持ちを日本で味わうことができたからです。今まで当たり前に生きていたけれど、自分が相手を変えたいと感じたら、自分から行動して周りの環境や自分の考えを変えることができるのだと、自信を持つことができました。そして、ぼくは自分を支えてくれる人の協力があるからこそ、笑顔で生きることができるのだと考えるようになりました。

ぼくのお父さんは、いつも世界のことをぼくに話してくれます。世界の国同士で戦争をしていること、ごはんや水が不足していて、世界中に課題があること、ぼくと同じように生活に満足することができない人が、世界にはたくさんいることをいつも教えてくれます。だから今、ぼくは自分が自分らしく生きるために、そして世界の人々が穏やかに生活することができるために、色々なことを学び、世界を知ることが大切だと考えています。

ぼくには夢があります。それは、お父さんの仕事を受け継ぐことです。ぼくのお父さんは、土木技師として世界の国の道路や建物の建設に携わっています。世界の国のために自分にできることに全力で取り組むお父さんのように、ぼくは世界の国々にある課題を自分の手で少しずつ解決したいです。そして、家族のために一生懸命働くお父さんのように、日本とエチオピアの平和のために全力を尽くします。世界の人たちが笑顔で穏やかな生活ができるように、今できることは何かを常に教えて生活していきたいです。

ぼくは、世界中にある課題を解決するためには、日本とエチオピアで学んだことが大事だと考えています。それは、「何事にも感謝すること」と、「相手への思いやり」です。エチオピアでは、「シュクラン」という感謝の気持ちを表す言葉をよく使います。心から良い気持ちになるこの魔法の言葉を多くの人達に伝え、感謝を表すことができれば、世界に広がる争いはなくなっていくと思います。また、日本で学んだ「相手への思いやり」は、相手が考えることを大切にすることです。相手をいつも思いやって関わることで、やさしさが生まれ、みんなが温かい気持ちになることができます。そうすれば、みんながみんなを助け合える世界になると思います。

ぼくには、日本とエチオピアという二つの母国があります。世界をよりよい世界にするために、ぼくは学び続けることと、二つの母国から学んだことを多くの人に伝え、日本とエチオピア、そして世界中の国の懸け橋となりたいです。そして、一人でも多くの人が自分の人生に希望をもち、笑顔で生きていくことができる世界を作っていきたいです。

（小学生の部　優秀賞）

「一杯の給食おかわり運動」

さいたま市立大砂土小学校 4年
福井　遥

当日は、声が出るのか心配しましたが、審査員の方々の優しい目を見ているうちに、緊張がほぐれ、だんだん勇気が出てきました。素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

私は、学校生活の中で、男女の考え方の違いについて気がついたことがあります。一つ目は、給食での出来事です。「おかわりしたい人！」という先生の声に、手を挙げて反応するのはほとんどが男子です。学校の給食はとてもおいしいのに、女子があまりおかわりをしないのはなぜでしょうか。女子はおかわりが恥ずかしいことだと思っているのでしょうか。

次は、代表委員会での出来事です。４年生になり、私は立候補してクラスの代表委員になりました。放課後、張り切って第１回目の会議に向かいました。会議の中で、「代表委員長に立候補したい６年生、手を挙げて下さい！」という先生の問いかけに、手を挙げたのは全員男子でした。先生が女子はやらないのかと聞くと、女子は皆、首を振りながら、責任が重大なことはやりたくありませんと言って、下を向いてしまったのです。

結局、委員長は６年生の男子、副委員長は５、６年生の女子に決まりました。女子は男子の補佐役なのでしょうか。委員長を務められそうなしっかりとした女子の先輩がたくさんいたので、私は残念に思いました。

私は、こうした男女の考え方や態度の違いにどうしても納得がいきません。まず、給食の場面では、女子だって好きな給食をたくさん食べたい人もいるはずです。「男子はおかわりしてもいいけれど、女子はたくさん食べるのは恥ずかしい」というような考えが女子を縛っているのでしょうか。

同じく、代表委員会の場面では、話が上手でリーダー性があれば、女子だって委員長になれるはずです。これは、女子が「男子がリーダーシップをとるべきだ」という考えにとらわれているのではないでしょうか。母は、こんな風に決めつける考え方をジェンダーバイアスというと教えてくれました。

ジュンダーバイアスは、家庭や社会で生活しているうちに知らず知らずに身に付きます。もし、このジェンダーバイアスが大人になってもずっと続くとすると、男子の仕事は力強くリーダーシップを持つもの、女子の仕事はおしとやかで男性を支えるもの、というように男女の役割や仕事が、初めから決められてしまうことになります。もしかしたら、これまで女性の首相がいないのも、弁護士や医者という社会的地位の高い仕事につく女性が少ないのも、こうしたジェンダーバイアスが影響しているのではないでしょうか。

それでは、このような「女の子は～してはいけない」というジェンダーバイアスをなくして、女性が社会で活躍するためにはどうしたらよいのでしょう。

私は、まず、毎日の小さなことから始めるべきだと思います。それは、「女子も遠慮しないでおかわりする」ということです。「おかわりをしてはいけない」という心の壁を取り除くことから始めましょう！女子も、食べたいから食べるという姿勢は、SDGs の目標５の「ジェンダー平等」の実現につながり、女性の社会での活躍を進めることになると思います。

ただ、急におかわりを勧められても難しいかもしれません。去年の担任の先生は、給食の時におかわりを恥ずかしがっている子に、にっこりと優しく笑って「○○さん、これ、あげるね。次からは自分でお代わりしに来てね。」と言って教室中を回ってくださいました。こういう風に先生が勧めてくださると、おかわりしやすくなると思います。また、女子同士誘い合っておかわりするのもいいかもしれません。「一杯のおかわり」という小さな運動が、女性の社会的な活躍という大きな流れにつながるように期待しながら、私は今日も友達とおいしく給食を食べたいと思います。

（小学生の部　優良賞）

「いつでも前向きに」

食物アレルギーがあったとしても、みんなと同じように一緒に食事をする。そんな自分の思いを、緊張することなく伝えることができました。この経験を生かして、これからも頑張ろうと思います。

ふじみ野市立西小学校 6年
酒井　千鶴

私は、食べたいものが食べられません。食物アレルギーを患っているからです。そのため、レストランなどで食べたいものがあっても、食べられない時があります。そもそも、食物アレルギー表示がないため、食べられるものかわからない時があります。そのような時、私はお店の人にアレルギーのことを話して、調べてもらうなどの対応をしてもらいます。そうすると時間がかかり、不便さを感じることがあります。食物アレルギーの人が不自由にならない世の中になってほしいと思います。

今は多くの人が食物アレルギーのことについて知っており、国民の三人に一人が何らかのアレルギーを患っているといわれています。しかし、まだまだ食物アレルギーの対応が不十分だと思います。実際に自分が安全に食べられるものがどれかわからなかったことがあります。最悪の場合、命を落としていたかもしれません。現在、様々な場所でアレルギー原材料の 27 品目のアレルギー表示をしてくれています。しかし、食物アレルギーはその 27 品目だけではありません。現に私は 27 品目以外のアレルギーを患っています。このような時、店員さんに詳しく聞かなければならないため、迷惑をかけてしまうという不安があるのです。

実際に食物アレルギーを患っている人が誤ってアレルギー物質を口にしてしまい、亡くなる事件があったそうです。食物アレルギーが原因でいじめにつながる可能性もあります。アレルギーがあるだけで他の人と同じことができないということは、とてもつらいです。

アレルギーは食物アレルギー以外にも様々あります。そのような人たちも私と同じような不安やつらい思いを抱えていると思います。

アレルギーを患っていることは悪いことではありません。アレルギーだからという理由で不平等に扱ってはいけないと思います。私は昔、アレルギーの事を後ろ向きにとらえていました。ネガティブだったら見るもの全てがネガティブになってしまいます。私はアレルギーを患っていても「いつでも前向き」が大切だと思います。例えば、アレルゲン免疫療法という方法で克服するよう頑張っている人もいます。私もアレルゲン免疫療法を使って、牛乳アレルギーを克服した経験があります。その時は、みんなと同じ牛乳を飲むことができ、とても嬉しかったのを覚えています。給食が食べられない時は、母がアレルギー対応食を作ってくれたり、家では私のアレルギーを除去したご飯を作ってくれたりしています。だから、より多くの人がアレルギーのことを前向きに理解してほしいです。

私が思う解決策はレストランなどでの食物アレルギー表示が一般化することです。そうすれば注文時の不便さもありません。また、理解を深めるための食物アレルギーの授業をすることも必要だと思います。さらに、食物アレルギーの人に配られる献立表を、だれが見てもわかりやすくすることも大切です。今、西小学校では、食べられないものが分かるように毎日献立表で確認を行っています。除去食の配膳やアレルギーの人の為に保護者と先生で面談をする取り組みもあります。これは、ふじみ野市全体でも行われているそうです。これらのことから食物アレルギーの人たちも、みんなと同じようにレストランで注文したり、みんなと同じように給食を食べたりすることができるといいと思います。みんなと食事することはとても楽しいことです。アレルギーを特別扱いするのではなく、いつでも、どんな時でも、安全に食事ができることを願っています。

（小学生の部　優良賞）

「優しい『心』の形」

春日部市立武里南小学校 6年
田中　まり奈

本番に向けて長文の暗記もでき、きん張の中、発表できた時は、とてもうれしかったです。そして、人前で発表する事に自信がつきました。この経験を生かして、いろいろな事に挑戦していきたいです。

「あなたの心はどんな形ですか。」

道徳の時間、私はこの一文から始まる詩と出会った。宮澤章二さんの「行為の意味」という詩だ。私の心はどこにあるのだろう。どんな形をしているのだろう。考えてもどう答えたら正解なのかわからない。だれにも「心」は見えないのだ。しかし、宮澤章二さんは言う。「心は見えないけれど、『心づかい』は見えるのだ。」と。だれかを思い、「何かしてあげたい」と行動するその行為は、「心づかい」となり、相手に届けることができる。私は、周りの人に優しさを届けられる人になりたい。

私は五年生の時に足をねんざして、二週間ほど、松葉杖で生活した。初めて経験したこの松葉杖生活は、想像していた以上に大変だった。しかし、たくさんの人の「心づかい」に支えられていることに改めて気付くことができた。松葉杖の私は、自分で学校に歩いて行くことができなかった。そのため、毎朝父や母が車で送りむかえをしてくれた。むかえの時間が遅い時は、図書室で待っていたこともあった。そんな時は、先生がそばにいっしょにいてくれて、楽しい話をたくさんしてくれた。三階にある教室まで行くのは、本当に大変なことだった。一人で上がることができず困っていると、必ず周りの友達が声をかけてくれた。

「ランドセル持つよ。」

「大丈夫？いっしょに教室へ行こう。」

その言葉にどれだけはげまされ、不安でいる私を助けてくれたか分からない。他にも、給食を持ってきてくれたり、片付けをしてくれたり、移動教室の時は、いつもすぐに友達が来てくれて、たくさんのことを手伝ってくれた。松葉杖での生活になることを知った時は、不安なことがたくさんあり、学校に行きたくない気持ちでいっぱいだったが、たくさんの人に助けてもらい、毎日楽しく学校に通うことができた。自由に体が動かないのは、不便なこともたくさんあった。しかし、この経験は私に二つの大切なことを教えてくれた。一つは、助け合うことの大切さだ。人は支えられて生きているということを学んだ。もう一つは、思いやりの「心」は、言葉や行動となり、人に伝えることができるのだということだ。困っている私をあの時、たくさんの人が助けてくれた。みんなに支えてもらえることのありがたさや、優しい気持ちを知ることかできたのだ。助けてくれたみんなに、今でもすごく感謝している。

当たり前にできていたことが、当たり前でなくなった時、初めて見えた、たくさんの人の「心づかい」。そのおかげで、「不便」だと思ったことはあったけれど、あの時の自分を「不幸」だと思ったことは一度もない。そして、人を大切に思うだけでは、その思いを伝えることはできない。何かしてあげたいと思う心があっても、行動しなければその心は伝わらない。しかし、その「思い」を言葉にし、その「心」を行動に移すことができれば、私が感じたのと同じように、しっかりと優しさを届けることはできるのだと思う。

たくさんの人がわたしの不安だった心を救ってくれたように、私も困っている人がいたら、「助けたい。」と思うだけでなく、何ができるか考え、行動できる人になりたい。学校でけがをしている人がいたら肩をかしたり、横断歩道を渡れず困っている人がいたら荷物を持ってあげたり、その人の支えになりたい。目の不自由な人が困っていたら、「青ですよ。」と声をかけたり、電車の席をゆずったりしたい。考えれば私にもできることがたくさんある。私がみんなに優しさをもらい、その優しさを今度は、他のだれかにあげられる人になりたいと思ったのと同じように、温かい「心づかい」は、人から人へと広がっていくのだと思う。「その輪が世界中に広がりますように。」と願い、私は今、自分にできることから行動していきたい。

「あなたの心はどんな形ですか」

きっと、人を思う優しい「心」は伝わるのだ。

（小学生の部　優良賞）

「地球というチーム」

他の人の発表を聞いて少し自信がなくなりましたが、チアのように、自信を持って発表することができました。みんなの願いが叶うといいなと、思います。

加須市立種足小学校 6年
山内　一帆

みなさんが、ネットやテレビを見て、一番心が痛むニュースは何ですか。私は戦争です。映像で見る戦争の様子は、あまりにも悲さんです。訳も分からない状況に混乱した子供が泣いていたり、家族や親せきが亡くなって大人も泣いていたりと、多くの人が苦しみ、悲しんでいます。もし、自分が突然、この立場に置かれたらと思うと、それだけで涙が出てきます。私だけでなく、世界中の人が同じように心を痛めているのではないでしょうか。

人はみな、生まれながらに平等で、楽しく安全に生きる権利があります。では、戦争で苦しむ人たちの権利は、守られていると思いますか。国民のための「正義」だと信じて選んだ戦争という方法で、たくさんの命が失われていること。果たしてこれは本当の「正義」なのでしょうか。

私は、チアダンスを習っています。「笑顔でいること」「元気を伝えること」「応援する気持ちをもつこと」この三つがチアに欠かせないチアスピリッツです。笑顔でパフォーマンスをすることによって、見ている人を励まし、元気づけることができるのが、チアの魅力です。

そして、もう一つチアに欠かせないのが、「チームワーク」です。私は、同じチームの仲間たちのことが大好きで、大切に思っています。小さい子たちを連れて行ったり、「ドンマイ！」「大丈夫！」と声をかけ合ったりと、チームワークがばつぐんのチームです。

また、自分のチーム以外にも仲間がいます。それは、大会などで順位を競い合う、絶対に負けたくないライバルのチームです。彼女たちは、チアというチームの仲間です。大会本番では、ライバルチームが演技を行う時、全力で応援をします。負けたらくやしいけれど、勝ったチームに全力で「おめでとう」を伝えます。世界中でチアをやっている人は、みんな仲間だからです。

私は「なぜ戦争をするのだろう。」「どうして力で解決できると思っているのだろう。」と、何度考えても、戦争が良い解決方法だとはとても思えませんでした。絶対にゆずれないことがお互いの国にあるのかもしれません。でも、「戦争」という方法は選ぶべきではないはずです。お互いに納得できる方法を話し合う、ゆずり合う、相手に対する思いやりの心をもつ、まずはそういったことから始めることはできないのでしょうか。

私は日本で生まれて育ち、日本のよいところをいっぱい見てきました。日本は、原子爆弾を落とされた唯一の国であり、戦争による傷の大きさや心の痛みをだれよりも分かっている国です。だからこそ、平和を強く望みます。私は、この日本が大好きです。特に、チアのように他国と仲良くしよう、平和に向けて努力しようとしているところが大好きです。

きっと、他の国に住む人々も、自分の国を大切に思っていることでしょう。だからこそ、その人々が愛する国をうばわないでください。その国のよいところをたくさん探してみてください。そして、その国を好きになってください。その国のうれしいことは、一緒に喜んでください。その国の悲しいことは、自分の国のように一緒に悲しんでください。自分の国も、相手の国も全力で応援してください。

私たちは「地球」という星に住む、一つのチームです。チームは、一人一人の意識や努力によって、全体を強くします。私は、地球というチームの一員として、いつでも相手のことを思いやり、自分にできることを考えて行動していきたいです。

私たちが大人になるころには、みんなが笑顔であいさつをし合い、励まし合える素敵な「地球」というチームとして、まとまっていると私は信じています。

それでは、最後に素敵なチアのかけ声を覚えて帰ってください。『Go For It!』

（中学生の部　最優秀賞）

「私のおばあちゃん」

私は人前で話すことが得意ではありませんが、今回人の心に響く主張ができたのだとすれば、とても嬉しく思います。これからも相手に思いを伝えるということを大切にしていきたいです。

本庄市立本庄東中学校 3年
村上　滉歩

「何で私のおばあちゃんはこうなんだろう。一人じゃ何もできないし、私のことだってわからない。」

３年前に亡くなった私の祖母は、認知症でした。私が生まれる２年前にアルツハイマー型認知症と診断され、私が物心ついたときは母がつきっきりで介護をしなくてはいけないような状態でした。小学校低学年くらいまでの私は、周りの子みたいに、若くて優しくて、欲しいものを何でも買ってくれるようなおばあちゃんがいることを羨ましく思っていました。

幼稚園の頃の私は、「認知症」とはわかっていても、祖母の行動に驚くことがたくさんありました。机の上に置いてあった私のおもちゃを口に入れたり、あめ玉を舐めずに飲み込んだり、誰かが見ていないと危ないこともよくありました。そんな祖母のことを、私は正直よく思っていませんでした。なぜなら、祖母さえいなければ、母を独り占めできたからです。昔、母はよくこんなことを言っていました。「おばあちゃんが家にいるときはおばあちゃんが一番で、おばあちゃんが家にいないときはあーちゃんが一番だよ。」と。その頃の私は、母の言うことは全てその通りだと思っていたので、疑問に思いませんでした。

私はよく母と、祖母のいるデイサービスに行っていました。知らないおばあちゃんが私に、「可愛いね。いくつ？」と聞いてきたので私は、「７才。」と答えました。すると、１分もたたないうちにまた同じおばあちゃんが、「可愛いね。いくつ？」と聞いてきたので、私は同じように、「７才。」と答えました。その後も何度も同じことを聞かれたけれど、私は同じことを聞かれるのは祖母のことで慣れていたので、何度も同じように答えることができました。帰り道で母に、「さっきは偉かったね。」と褒められました。

介護は決して簡単なものではありません。ましてや、一人では何もできない人や、コミュニケーションをとれない人の介護は、大変なことも多いです。しかし、だからこそ、うれしいこともあります。私が祖母に小さく切ったりんごを食べさせてあげたとき、私が、「おいしい？」と聞くと、いつもは無反応だけれど、ときどき、「うん。」とうなずいてくれたのは、本当にうれしくて、すぐに母に伝えました。無反応のように見えるけど、孫に対する愛情は、失われていなかったのです。当時はわからなかったけれど、今思えば、愛情をうまく伝えられなかっただけなのだと思います。今になって、母にもこんなことがあったのかなと思い聞いてみると、「もちろんあるよ。介護は最初のうちは大変なことばかりで辛いけれど、ずっと何年も続けていると、大変なことは変わらないけれど、おばあちゃんに癒されることもあるんだよ。」と教えてくれました。「おばあちゃんの一瞬の笑顔で、その日一日が幸せな気持ちになるんだよ。」とも言っていました。当たり前ですが、祖母は最初から認知症だったわけではありません。愛情を注ぎながら母を育てていた頃もあったのです。母は、祖母と一緒にいることを幸せに思っていたと思います。また祖母も、娘である母の温もりを感じて安心していたのだと思います。

中学生になった今、私には何ができるだろうか。わかっているつもりでも、もっとしっかりと認知症について知ることから、まずは始めてみたいです。どんなサービスや介護の選択肢があるのかを調べ、元気なうちに父や母の考えを知り、話し合うことも大事だと思います。高齢になると、誰でも介護の必要性が出てきますが、それぞれの家族で事情が違います。一人一人の状況にあった介護サービスが受けられる社会になればよいと思います。いつまでも家族の絆が切れることなく、どんな時でも家族が互いを思いやり、心が通じ合えたら素敵ではないでしょうか。そのために一番大事なのは、家族に対する優しさや思いだと思います。それは、家族との日頃の何気ない会話ややり取りから生まれるものかもしれません。私は、そんな家族との時間をこれからも大切にしていきたいです。

（中学生の部　優秀賞）

「この風を誰かに伝えたい」

小川町立東中学校 2年
菊地　彩莉

手紙だったら本音が言いやすいように、作文だったら自分のことを伝えやすいと思ったんです。何かに悩んで迷っている貴方の支えとなり、小さな勇気の欠片になってくれたら嬉しいです。

「教室で授業を受ける」

あたりまえだと思っていたことが、ある時とても怖くなった。教室に入ることも嫌に感じてしまうようになり、別室登校をするようになった。周りの人と同じようにできない辛さ、置いていかれていると焦って結局何もできなかったように感じた１年。この１年何やっていたのだろう、と考え、自分で自分を追いつめてばかりいた。

別室登校をするのにも、朝は体が重くて起きるのすらしんどいし、親に相談する勇気もなかった。「学校に行きたくない」2秒で言えるはずなのにのどにつっかえて言葉がうまくでない。本音を言おうとすると涙がでてしまう。

「言わなきゃ伝わらないよ」

大人からのアドバイスがあっても、その時私は心に「バリア」を張っていたのかもしれない。どうしても素直に受けとることが難しかった。

春休み。休みなのに一日中新学期のことで頭がいっぱいだった。「始業式の日からつまずいたらどうしよう」「学校もクラスも授業も不安で仕方がない」

前向きな考えを持てないまま、新学期が始まった。はじめの１週間は、疲れてくじけそうになったけれど、何とか乗り切ることができた。いよいよ授業が始まる。後戻りできないことは分かっているが、どう進めばいいのかわからない。迷いに迷った末、私が選んだのは「パート出場」。心身に負担をかけないよう、行けそうな授業を受けるプログラムだ。一度にたくさん進んでも、体と心は追いついていかないから。「やってみようかな」と言ったけれど、本当はとても怖かった。目の前は分厚い壁だらけで、前はよく見えない。

「無理しないでいいから」と言われたが、パート出場を決めたこと自体、無理を承知でしたこと。その場の空気に押されて「はい」としか言えなかった。人に左右されて周りに流されてしまう自分がとても嫌だった。それでも、朝いつもの時間登校して２・３時間授業を受ける。早退する日もあれば６時間目までいられる時もある。一進一退。これが、今の自分だ。

５月になって何かが変わった。ふとした瞬間、背中に風が吹くように今まで積み上げてきた見えない頑張りに、私は背中を押された気がした。くじけそうになった４月や、何度もころんで「自分なんか」と思うばかりだった去年。これらをひっくるめた日々が、私をつくっていた。悩んだあの日も、泣いてしまったあの日も無駄じゃなかったんだなあと思えるようになった。でも、完全に心が晴れたり毎日元気でいられた５月ではない。やっと、折り合いをつけられたところなのだ。

ほんの少し自信がついたところで、次は定期テストと体育祭が待っていた。これもまた大きな壁。テストの出来はイマイチだったけれどはじめて教室でテストを受けた。体育祭は体調不良ででられなかったけれど、練習には初めてでた。

大縄跳びの練習中、疲れてひっかかってしまった。「頑張って」と声をかけられた。「私は頑張っていないってこと？」「自分がいない方が良い記録がでるんじゃないの？」「クラスに迷惑かけているのかなぁ」明るい励ましは、私の心を突き刺し、えぐってしまう。

それでも練習は続き、縄跳びの列に並んだ。跳べなくたっていい。やっとここまで来たのだから。自分に負けるのはもう嫌だ。

こんな自分と手を繋ぎながら、私は今日も少しずつ生きている。

（中学生の部　優良賞）

「私の夢ができるまで」

この大会を通して、自分の将来の夢がより明確に見えました。そのため、日々の生活の中で夢実現のために何ができるのかを考えて、理想の自分に一歩でも近づけるように頑張りたいです。

春日部市立武里中学校 2年
相澤　心花

「元気に産んであげられなくてごめんね。たくさん辛い思いをさせてごめんね。」

八歳の私に母は何回も、こう謝りました。

みなさんは、総胆管拡張症という病気を知っていますか。総胆管拡張症とは、胆汁への通り道となる総胆管が全体的に、あるいは部分的に拡張する病気のことです。私は二歳の頃、この病気にかかりました。ある日、急な腹痛や嘔吐に襲われた私。母も最初は様子を見ていましたが、痛みが十分以上も続いたので急いで近くの病院まで行くと、ここでは検査できないからと言われ、市立病院まで運ばれました。そこで私は、総胆管拡張症と診断されました。その日から、私の病院生活が始まりました。感染対策のため、病棟には親のみしか入れませんでした。そのため、姉や祖父母とは外からしか顔を合わせることができません。母は看護師なので、慣れた手付きで私の着替えをしてくれました。そのため、病院の看護師さんから「お母さん、凄く手馴れてますね。もしかして、看護師さんですか。」とよく聞かれていたのを覚えています。

母が病室にいてくれる、それが私の唯一の幸せな時間でした。でも、母も姉達の面倒も見なくてはならないので、そう長くは病院にいてくれません。二歳の私からしたら、家族と少し離れただけでも寂しいのに、一日の半分以上もベッドの上で過ごすなんて地獄のような日々でした。私は毎日、母が帰るとなると「まだ帰らないで。」と泣き叫んでいました。それを見て母も泣く、それが毎日のルーティンでした。

母は、私が病気になったのは自分のせいだと思っていたようです。それは、小学校二年生の頃「母から子に手紙を送る」という授業参観の時に、母からもらった手紙で知りました。その手紙には「体のあちこちにあるチューブを見た時、元気に産んであげられなくてごめんね。私が代わってあげたいといつも思っていたよ。」と書いてありました。私は「誰のせいでもないよ。」と手紙を読んだあと、母に言いました。

私は今、学校や習い事、そして部活などを頑張っています。それは、元々母が私を産んでくれたからなのと、手術を成功させてくれたお医者さんのおかげでもあると思います。また、私は看護師さんにも感謝しています。母が病院から帰ったあと、母の代わりをしてくれたのは看護師さんだからです。私は、手術前が特に不安でした。「これが失敗したらもう二度と家族と会えなくなる。」と思うと、不安でいっぱいで逆に家族の顔を見ていられなくなりました。でも、看護師さんの「大丈夫、一緒に頑張ろうね。」という優しい言葉に私は救われました。その後、無事手術は成功し、制限されていた食事からも解放され、少しずつですが元の日常へ戻ることができました。

この経験を通して、私は今、不安や悩みを抱えている子供の助けになる仕事がしたいと思っています。看護師は、何か発作が起きた時、最近のその子の行動や食事などから原因を予測することができるため、観察力がとても大事になってきます。そこで私は、今「部活のメンバーの誰よりも周りを見て行動し、気遣いをする。」ということを目標に頑張っています。

今となっては、顔も名前も忘れてしまった看護師さん。でも確実に、私に勇気を与えてくれた、夢を与えてくれた看護師さん。そんな人に私もなりたいと思い、私は今、小児科の看護師を目指しています。

（中学生の部　優良賞）

「『温故知新』」

たくさんの人の前で発表するのは緊張したけど、堂々と発表することができました。また、他の人の主張を聞くことによって見聞を広げることができました。僕も自分の夢に向かってがんばります。

日高市立高萩中学校 3年
金嶋　椿

この夏僕は、家族で母の実家がある三重県に帰省した。祖父母の家は伊勢神宮まで車で30分ほどの緑豊かな場所にある。

新型コロナウイルスの影響で、３年ぶりの訪問となったけれど、僕の目にはいつ訪れても美しい自然はそのままで、全く変わらないように見えた。

叔父に連れられ、鯛の養殖が盛んな古和浦に海釣りにも行った。埼玉では簡単に見られない海に向かって立つと、とても新鮮で雄大な気分になる。でも僕は釣りをしていて気づいたことがあった。まずは海の中にゴミがたくさん浮いている。ペットボトルなどの大きなゴミがやたら目につくのだ。さらに釣りをしていても、回遊魚などの魚がめっきり減ってしまったように感じられた。叔父が以前はもう少し魚も見えたしたくさん釣れたのになぁ、と話していた。短期間で変わってしまった海だけの問題ではなさそうだ。母の実家の近くには日本でも清流の上位に入る宮川が流れている。埼玉の近所の川と比べればとても綺麗だなと感じるその川も、長い年月をかけてどんどん汚れてしまっているらしい。祖父が子供のころ素潜りをすれば、目の前に大きな鮎がたくさん泳いでいたそうだ。今では鮎の数も激減し、小さな鮎ばかりになってしまったと話してくれた。人口も少ないこんな田舎でも、環境破壊が進んでいるんだと改めて考えさせられた。

他にはどんな環境変化があるのか調べてみることにした。

ヨーロッパでは、この夏記録的な熱波に見舞われ、40度を超える毎日が続いたそうだ。それなのに元々そういった気候ではないため、ほとんどの家にはエアコンがないのだそうだ。信じられなくて、ドイツに住む兄の友人に暑さ対策について聞いてみた。

彼の家は70年以上前に建てられた古くからある建物で、もともと石で作られているから空気が外に逃げづらい。太陽がしずんだ夜から朝にかけての涼しい時間帯に冷たい空気を家の中に取り入れ、昼間はシャッターも閉めてひんやりした空気を閉じ込めておくそうだ。電気を使わなくても昼間涼しく過ごせる工夫は、そもそも家を作る材料から考えられている。

コロナウイルスの拡大が始まってから、人々の行動制限がかかったおかげで、一時的に地球上の大気汚染物質が減少したり二酸化炭素の排出量も減った。一方では15億枚以上のマスクが海に流れ込み、海洋生物に悪影響を及ぼしているとの報告もある。僕たち人間にとっては我慢ばかりの行動制限も、地球の環境改善に一役かっていたと思うととても複雑な気持ちになった。

環境のために、僕たちは乗り物に乗って移動するのを控え、なるべく外に出ず、人に会わず最低の行動範囲の中で大人しくすごすべきなのだろうか。

便利なものが溢れ、確かにどこにも行かなくても誰にも会わなくても、手元で情報が得られる時代にはなったけれど、学校に行けなかった３ヶ月間のことを思い出して、僕はやっぱり我慢には限界があるよなって思う。

三重の祖父母の家には、温故知新という言葉が飾ってある。祖父が小さい時にみた綺麗な川と、70年前に建てられたドイツの古い家。大昔の地球にはきっともう戻ることはできないだろうけど、それでも今ある自然をなるべく残し、今よりちょっとでも綺麗な環境を取り戻していく努力は続けなくてはいけないと思う。

昔の人の知恵と、現代の技術の両方を使って、僕たちにできること。いつか僕が大人になった時に、祖父のように「昔は綺麗だった」と言わなくて良いように、我慢ではなく意識を変えることで自分にできる事を継続して、この先も地球の豊かな自然を守っていきたいと思う。

（中学生の部　優良賞）

「飛んで『彩の国』」

坂戸市立浅羽野中学校 3年
金　洋平

埼玉県の魅力を広める機会を与えていただき、ありがとうございました。関係者と先生方へ感謝致します。これからもさまざまな視点を取り入れて、彩の国の素晴らしさを伝えていきたいです。

「埼玉県って、何もないですよね？」テレビ番組で、幾度と耳にする言葉だが、果たして本当に埼玉県には何もないのだろうか。

外国生まれで、埼玉育ちの私が「彩の国」の魅力を歴史、自然、食文化の三つの視点から語りたい。

第一に、埼玉県の歴史的な建物や観光地と言えば、まずは「小江戸」川越だろう。川越街道や城下町として発展し、商業や交通の拠点として栄え、江戸時代には武蔵国 (現埼玉県) の中心地の一つとしても栄えた地域だ。川越の町並みは、今にも伝わる古い建物や街路が残されており、江戸時代の雰囲気を楽しむことができる。「時の鐘」や「氷川神社」など歴史的な建造物や文化財が数多く保存されているため、国の重要伝統的建築物群保存地区にも選ばれ全国有数の観光地になっている。

私の外国の親戚が来日した際に、川越を案内したことがあった。彼らが日本の伝統的な文化や建築に触れる貴重な機会となり、とても喜んでいたことを今でも鮮明に覚えている。

もちろん、埼玉県は川越の他にも魅力のある地域がたくさんある。その一つが秩父だ。毎年 12 月に行われる秩父夜祭は多くの人でにぎわう。その歴史は深く、約 300 年以上の伝統を持つ祭りで、日本三大曳山祭の内の一つとして知られている。7 世紀に造られた秩父今宮神社は、自然に囲まれた美しい環境にある。四季折々の風景が楽しめることで知られており、自然と神社の融合が、人々に心地よい癒しを与えることが出来るため、多くの観光客が訪れている。

第二に、埼玉県は関東平野に位置していることで、豊かな自然も広がっている。

川沿いのハイキングや自然散策に限らず、森林公園でサイクリングをしながら木々の間を走り抜けたり、清々しい風を感じたりすることで、自然との触れ合いを深めることもできる。長瀞では、絶景の渓谷を楽しみながら川下りのボート遊びもできる。

さらに、埼玉県には多くの温泉街がある。例えば、長瀞温泉や秩父温泉などがある。泉質が多様で、それぞれが特徴的な効能を持っている。

第三に、埼玉県は農業が盛んな地域であり、その特産品を活かしたご当地グルメも充実している。

うどんと言えば、多くの人が香川県と思い浮かべるだろう。実際に、香川県はうどんの生産量が全国１位だ。それでは、全国２位はどこか知っているだろうか。なんと、全国２位は、埼玉県である。埼玉は隠れたうどん県なのだ。埼玉県は、晴れの日が多く、日照時間も長いことから米作りより、小麦作りに適した土地といわれている。私もうどんが好きだが、特に私が好きなのは、「手打ちの武蔵野うどん」だ。コシが強く、肉うどんのつけ汁がたまらない。

さらに、埼玉県では美味しいウナギ料理も楽しめる。埼玉県には様々な河川がある。荒川や利根川などを中心とし、ウナギの養殖や捕獲が盛んに行われていた。そのため、老舗のウナギ料理店が数多く存在しており、その伝統の味が今に受け継がれている。

以上のことから、埼玉県は何もない県ではない。むしろ、歴史、自然、食文化が現代まで受け継がれてきた「彩り」がある美しい「国」なのだ。だからこそ、歴史の古い街や豊かな自然が共存したり、美味しい食べ物も食べることが出来たりするのだ。

世の中へ「彩の国」の魅力が知られていないこともあり、穴場でもある。しかし、これほど観光に向いている地域でありながら、世の中に知られていないのはもったいない。これからは「彩の国」で育ったことに誇りを持ち、「彩の国」の魅力を全国に向けて発信していきたい。

（高校生･一般の部　最優秀賞）

「社会を視る高校生の目」

自分の考えを他者に伝える良い経験になりました。素晴らしい賞を受賞できて嬉しいです。また、他の方の発表を直接聞けて勉強になりました。この度は、貴重な経験をありがとうございました。

筑波大学附属坂戸高等学校 3年
工藤　真尋

スマホを置いて外に出よ。高校生は外に出て活動する課外活動を行うべきだと思います。学校の壁を越えた現実世界を知れるからです。課外活動は人々と交流でき、様々な体験を得る機会が多くあります。これにより、高校生は自身の視野を広げ、他者の視点や価値観を学べます。特にボランティア活動は、個人の興味に合わせた自由な活動を通じて社会を支えられます。また、自身の能力で社会の役に立つことを実感できます。これを繰り返して行うと、社会を視る目を養えます。なぜなら、社会の役に立つためには、社会課題の把握を精密に行う必要があるからです。一般的にボランティア活動は、社会課題に対して解決策を練る必要があります。そのためにより現実的な社会の理解を行わなければなりません。私はこのことを高校在学中に学びました。

高校１年次に、小中学生を対象にした支援事業を開始しました。きっかけは、とあるネットの記事を見たことです。小中学生くらいの年齢の児童は、学校の友人との関わりや、学校外での活動から自己肯定感を高めることが望ましいとされています。しかし、学校の環境が自分に合うとは限らないし、家庭の金銭的状況によっては、そのような経験を積むことが難しい場合もあります。また、一人親家庭や共働き世帯では、子どもが家の外で自由に過ごせない場合も少なくありません。この課題を知ったときに、社会背景についてさらに追及したい、自分にもできることがあるはずだと思いました。当時の私は大まかな課題背景しか分からず、本当にこの問題が起きているのかもわかっていませんでした。

だから、はじめの１年は小中学生を支援するボランティア団体を運営している人達に話を伺いました。また、小中学校の問題点や、学校以外の学習環境の課題を学びました。学校の環境の問題点としては、学校外での学習は誰もが経験している前提であるということです。自身も子どもだけれど年下の兄弟の面倒を見なければいけないヤングケアラーや、休みの日に出かけることができない家庭は一定数あります。そのような環境にある子どもにとって、学校外での様子を話すことは心苦しい場合があります。もちろん、学校外での様子を友達と話すことは、それだけで貴重な経験であり楽しいことです。しかし、その楽しさの度合いは人によって大きく異なることも事実です。そこで私は､それぞれの団体で子どもたちがどのようなことをしているのか調査しました。机上での勉強に重きを置いている団体では､とても静かで全員が集中していました。中には勉強嫌いの子どももいましたが、こちらが分からないことを教えれば、すっと集中できていました。遊びに重きを置いている団体では、室内外関係なく子どもたちが自由に走り回っていました。反対に一人でずっと熱中して絵を描く子もいました。このように､団体ごとに環境は様々であると知りました。そして、高校生が提供する場には何が必要か疑問に思いました。

そこで２年次では、単にボランティア団体に訪問するだけでなく、高校生らしさとは何かを考えながら参加しました。勉強中心の団体では、内容次第では高校生でも教えられますが教員の方々には及びません。遊び中心の団体では、一緒に元気に遊ぶ体力をもってはいるものの、成長のための有効な遊びといった知識は持ち合わせていません。では、私達にできることとは何でしょうか。二つの団体の共通点として、年齢ではなく能力を生かして運営をしているということが言えます。教員が特定の教科を教えることに専念していたり、福祉や子供の教育方法を専門的に学んだ人がオリジナルの遊びを考案したりするといったように特技を生かしています。しかし、高校生という分類は個々の能力を示しているとは言えません。故に、高校生らしさよりも、私達らしさを考えるべきだと気づきました。

３年目、私達は個々の特技に基づいて二つのイベントを企画しました。一つは、走り方を教える教室です。陸上部に入部していた友人を教師役として、走り方や走る楽しみについて参加者と話し合いました。二つ目は、プログラミングを考える教室です。こちらは、プログラミングを学んでいる友人を教師役として、基礎的なプログラミングや、身近にあるプログラミングで出来たものからその重要性について意見を出し合いました。もちろん、走り方もプログラミングも、それぞれ子供に教えることに特化した人はいるでしょう。私達はそのような人々以上の能力を持ち合わせているとは言えません。しかし、子どもの目線になって一緒に考えることを提供しているのは、間違いなく私達の魅力です。２年かけて子どもと向き合うために必要なことを考え、実践してきたからです。実際、このイベントに参加してくれた子どもと保護者からは、楽しかったなどの感想をくれただけでなく、次のイベントの実施について聞かれたりリクエストを提案されたりしました。一度きりではなく、次回も来たいと思ってもらえたと分かったとき、高校生の能力でも社会貢献ができると証明された気がして嬉しかったです。

このように、私達は子どもの学習環境という社会課題を知り解決に向けて行動しました。そのために、現在行われている解決方法を体験しながら学び、私達だからできることを考えてきました。はじめは右も左も分からず、社会を捉えきれていませんでしたが、最終的に自分達の能力を生かし、社会貢献へと繋げられました。

以上の理由から、高校生の課外活動は非常に重要だと考えます。学校外での経験や活動は、自身の可能性を発見するヒントになります。そして、社会貢献を通じて視野を広げられ、社会を視る目を養うことができます。皆さん、スマホを置いて外へ出ましょう。

（高校生･一般の部　優秀賞）

「大切なものを守るために」

埼玉県立豊岡高等学校 1年
佐藤　唯花

ふと目に留まったことを詳しく調べ、次々と出てくる疑問を解決していくのがとても楽しく、学びにもなりました。また、この発表の場で多くの考えを共有し合えたのでとても良い経験になりました。

この世から、ネギトロがなくなるなんてありえない。例えるならそれは、わたしにとって家族が入院してしまうくらいの衝撃だ。

近い将来、私がおばあちゃんになる頃にはマグロが獲れなくなるという記事に目が留まった。その本によると、60年後にはマグロの親魚が約７分の１にも減っているそうだ。世界中で獲れるマグロの約８割は、日本で消費されているらしい。

「食べ過ぎ、獲りすぎなのであれば、私、少し我慢します！」

気になって調べてみるとそんなに単純な話ではないと分かった。その大きな原因の一つは、なんと地球温暖化だというのだ。困った……。私には地球温暖化を止めるなんてそんな大きなことはできそうにもなく、今このマグロの味をしっかり覚えておくことしかできないのだろうか。それにしても、一体地球温暖化とマグロがどう関係するのか。

そもそも地球温暖化とは、人間活動による化石燃料の使用や森林の減少により、大気中の温室効果ガスの濃度が急激に増加し、大気の温室効果が強まったことが原因で起こると考えられている。それに伴い海の水面温度が上がると、温帯性の海藻が減り、代わりに亜熱帯性の海藻が増加して多様性も低下する。その上、魚の活動時間が長くなるため食害が増え、マグロの餌となる小魚の藻場が衰退するという。さらに、マグロの産卵の水温は26度と極めて限定されているうえ産卵域も限られているため、水温上昇により産卵できる場所自体が少なくなり、仮にうまく産卵できたとしても稚魚の成長が極めて悪くなるのだ。また大人のマグロは、海の中で泳ぎ続けているため体温が上昇するのだが、調節可能な範囲を超えるとオーバーヒートして回遊できなくなる。

このように、多様な方面からの影響で、温暖化はマグロの成長に害をもたらす。知れば知るほど絶望的だが、私がおばあちゃんになっても大好きなネギトロを食べるにはどうしたらよいのだろう。大学で研究して温暖化に強いマグロを作れるかな。いや、50年で確実に研究成果が出るか自信がない。やっぱり CO_2 排出の削減のために、よく言われているあれしかない。エアコンの設定温度を１度控えめにし、レジ袋削減のためにエコバックを持ち歩き、シャワーの使用時間を１分、いや３分減らそう。定番の対策だが、これがまさか将来のマグロにつながっているとは。これを日頃から意識的に実施して、友達にも説明して一緒にやれば効果が出そうだ。よかった、具体的な目標があれば頑張れる。

ところが、世界の CO_2 について調べてみると、日本の排出量は世界でたったの３パーセントしか占めていない。つまり、日本中の人々が今から何の生産活動もしなかったとしても、CO_2 の排出量を大きく減らすことは不可能だ。さらに、排出量１位の中国と２位のアメリカで、世界の排出量の半分を占めているのだが、なんとこの２か国は、CO_2 削減運動には参加しないと宣言している。また私はショックを受けた。経済活動を第一に考えることは大事なことだが、それは地球が元気だから言えることだと思う。地球環境が悪くなれば、国など関係なく世界中、地球中が影響を受けるのだ。もしも私が中国やアメリカのリーダーであったなら、反対意見があったとしても必ず説得して、削減運動に参加する。自分の国の決断が地球の未来を左右するのだからそうする義務がある。

将来のことを世界中の人が考え、それぞれが理解して納得し、目の前のことだけではない未来を見据えた考えが世界中に広まればよいと思う。私も日々、自分にできることをしっかりと考え続けたいと思う。60年後もおいしいネギトロが食べられることを祈って……。

（高校生･一般の部　優良賞）

「日本の環境対策について」

埼玉県立和光国際高等学校 2年
浅田　璃子

様々な学年の、様々な主張を聞くことで、自分の視野を広げる貴重な経験となりました。この経験を生かし、自分の意見を「主張する」ことを大切にして過ごしていきたいです。

「日本は、SDGs の環境に対する取り組みがうわべだけである。」この言葉を、有名な経済学者が言っていた。私はその言葉を聞いたとき、本当にそうなのかと疑った。なぜなら、日本では様々な SDGs に対する取り組みが行われているとよくテレビなどで聞くし、何か商品を買うときにはリサイクルやエコに対する取り組みが表示されていて、レジ袋は有料化のため多くの人々がエコバックを持参しているなど、日々の生活から「日本は SDGs の問題に対して積極的に貢献している」と自分の中で確信していたからだ。しかし、私は、日本の環境に対する取り組みに少し違和感を感じた瞬間があった。それは、海外研修でイギリスに約２週間滞在していた時の経験からである。

私は、ホームステイ先のホストファミリーにごみをどこに捨てればよいかと聞いた。すると、「ゴミではなくリサイクル。使用済みの紙など以外はほとんどリサイクルするのよ。」と言っていた。また、週に１回、リサイクル車が来て各家の外に出されているリサイクル品をそれぞれ回収するらしい。そして、リサイクルの日には、車に乗って街を通るとほとんどの家がリサイクル品を出してあるのが見られた。私はその時、イギリスに住むひとりひとりの環境に対する強い意識が感じられ、非常に驚いた。日本でもリサイクルは行われているが、生活で出てくるごみのごく一部であるため、意識の小ささを感じた。そこで日本とイギリスのリサイクル率を調べてみたところ、日本は 19.9 パーセント、イギリスは 44 パーセントと大きな差があることが分かる。また、環境に対する意識の大きさに驚いたのが、プラスチック製品をむやみに買わない点である。そして、プラスチック製品を買ったとしても何度も洗うなどしてごみとしてあまり出していなかった。そして、イギリスの紙幣でさえも、環境に配慮した素材であった。イギリスの紙幣は、ポリマー素材といい、環境にやさしく、紙の紙幣よりも 2.5 倍強いため、長く使えるようになっているらしい。

このような経験から、環境に対する日本の取り組みに興味を持ったため、調べてみたところ、自分が知らなかった様々な課題点が見えた。まず、プラスチック削減に対する取り組みである。政府は、レジ袋を有料化にしているが実際はプラスチック袋の使用量自体は減っていないことや、多くの人々が使うようになったエコバックのほうが制作時の環境負担が高いなどの問題点がある。ほかにも、企業がもともと行っていたことを無理やり SDGs と結び付けて宣伝に利用していたり、プラスチックストロー削減のため紙ストローにしていても、結局容器はプラスチックであったりと、このような事実からこの取り組みはうわべだけのように感じてしまった。

しかし、国や企業が「SDGs」という言葉を多く使っていることで、私たち国民の環境に対する意識は確実に強くなっていると私は思っている。根本的に環境問題を解決するにはまず国民の環境に対する意識が大切だと思う。

ところで、環境に対する取り組みが最も進んでいる国はどこであるだろう。気になったため、調べてみたところ、１位はフィンランドであった。フィンランドのリサイクル率はなんと 70 パーセントであり、ペットボトルを専門の機械に捨てると一部が返金されるというシステムがあるらしい。私はこれを知って日本もリサイクルしやすい環境を身近に置けば、自然とリサイクル率も高くなるのではないかと考えた。日本は、スウェーデンのように税金を高くとっているわけではないので、ペットボトル回収の機械のようなものを置けるわけではないと思う。だから、ゴミ箱を今より多く設置すれば、地面にペットボトルのゴミが落ちているようなことも少なくなると私は考えた。

今、世界は様々な環境問題を抱えている。増加し続ける二酸化炭素濃度などの影響で気温が上昇し続け、1880 年から 2012 年にかけて 0.85 度も上昇している。また、海洋では人間の手によって海に廃棄された石油、ゴミ、生活排水などの物質が生態系のバランスを脅かしている。森林では土地開発や木材の商業利用を目的とした森林伐採や焼失などで野生生物の減少や絶滅、さらには地球温暖化を進行させてしまう。ほかにも、世界が抱えている環境問題はたくさんある。多くの人が、これらの環境問題を一刻も早く食い止めるべきだと言っている。しかし、私は海外の環境に対する取り組みの知識などから、日本は環境問題に対してもっと根本的に取り組むべきだと考えるようになった。化石燃料による発電から再生可能による発電に切り替える、プラスチック削減の活動をより徹底し、物を製造する際は環境にやさしい物質で作るなどがあると思う。私も環境についての正しい知識を身に付け、身近にある小さなことからでも積極的に取り組んでいきたい。

（高校生･一般の部　優良賞）

「絶滅を選ぶな ―未来の地球のために」

早稲田大学本庄高等学院 1年
山口　耕平

今回の主張発表会に参加して、自分の意見を多くの人に伝えられただけではなく、他の人の意見を聞くことでより自分の考えを深めるきっかけとなりました。貴重な機会をありがとうございました。

「Don't Choose Extinction- 絶滅を選ぶな。」このフレーズは、私がたまたまユーチューブを見ていた時に流れてきた、国連総会会議場で恐竜がスピーチをしている広告で知った。いつもはスキップしてしまう広告だが、その言葉が心に染み、その広告は最後まで見てしまった。

そのスピーチの内容は、このようなものだった。恐竜は、約 6,600 万年前に、地球に衝突した巨大隕石によって絶滅した。突然の出来事で、かわいそうな運命である。しかし、もし恐竜が意図的に隕石を落とし、絶滅したとしたら、現代の私達はどう思うだろう。かわいそうだとは思えず、絶滅は当然のことだったと誰もが思う。今の我々に置き換えよう。我々人類は、自分達の手で地球を破壊し、絶滅を招いている。「自分たちの手で絶滅した生物。」人類は後の動物達に、こう呼ばれるようになる。今の世界を未来につなげようと努力する人々もいるのに……という内容だった。

世界は今、様々な問題を抱えている。新型コロナウイルス、ロシアによるウクライナ侵攻、地球温暖化、海洋汚染……書き出せばきりがないほどだ。そして世界には、これらの問題を解決しようと日々努力する人もいれば、解決しようと努力するどころか事態をエスカレートさせようとする人もいる。もちろん後者の人を一概に悪いと言うことはできない。しかし、少し視点をずらして、色々な方向から世界を見てほしい。地球温暖化によって減少する両極の氷、大気汚染で白くかすむ町、変わり果てた森林、そして他国の侵攻で破壊された家を前に嘆き悲しむ人々……これらが我々人類のもっている素晴らしい「力」や「お金」を追求した結果だ。

次に、少し視点を狭めて、日本で見てみよう。SDGs の達成率というものがある。SDGs とは、持続可能な社会を実現するために、環境、人権など様々な面で設定された、世界規模の 17 の目標である。日本はその総合達成率が 79.6%、世界 163 ヵ国中 19 位だ。私は高い成績だと思った。しかし日本は、達成率の高い目標と低い目標で、数字に大きな差がある。「貧困をなくそう」や「質の高い教育をみんなに」という目標の達成率は、ほぼ 100% である半面、「ジェンダー平等を実現しよう」や「海の豊かさを守ろう」という目標では、50% 前後しか達成できていなかった。例えば、海洋汚染が世界中で問題となっている。廃棄されたプラスチックによって、動物達が命の危機にさらされている。人間の力の乱用が、動物にも影響を及ぼしているのだ。

これまで見てきたように、地球には困っている、苦しんでいる人々、動物達がいる。長い時間をかけて得た人間の力。人間の力を今の人間だけに使うのではなく、その先の未来、末長く続く地球のために使うほうが、価値があるとは思わないか。

そして人類には、発展に発展を繰り返し、今の世界を築いた経験がある。様々な問題から目を背け、今を突き進む時代はもう終わりだ。一度全てを振り返り、問題に目を向ける。まだ発展途上の国を先進国が支援したり、人間だけでなく、動物の生態に目を向けたり、できることは山ほどある。地球という一つのまとまりで動いているからこそ、未来と今をより良く進化させるために、協力すべきだ。人類には応用する力がある。協力する力がある。人数がいる。例え 100 人でも、80 億という数の人々、そして、それを超える数の動物が住む地球を変えることはできる。そして問題を乗り越えた先の地球には、必ず今以上の価値がある。

今もっている人類の力を人類の絶滅、動物の絶滅のためでなく、地球の全ての命のために使おう。命のために力を尽くそう。地球は一つ。地球の命は皆、家族。Don't Choose Extinction には、そんな意味が込められていると、私は信じている。

特別賞の紹介

「Humming Bird未来基金」特別賞
さいたま市立大砂土小学校 4年
福井　遥さん

よくある学校の風景の中に潜む無意識の偏見。それに気づき、それが世界的にも大きな課題「ジェンダーバイアス」である事を知った小学校４年生の福井さん。そこで終わらせずに、問題解消の糸口を思いつき実行案を提言する姿、とても頼もしかったです。

当基金では未来を担う子どもたちが広い視野を持てるように支援を続けています。「女らしさ」「男らしさ」より「その人らしさ」を尊重する世の中にしたいですね。福井さんの一杯の給食おかわり運動は確実にそこに繋がっています。ぜひ、素敵なリーダーになってください。

「埼玉キワニスクラブ」特別賞
三郷市立彦糸小学校 6年
オマー　ビラル　モハメドさん

エチオピアから家族で来日し、日本語が話せなかったオマービラル モハメドさんが１年間で習得した日本語は素晴らしいです。日本とエチオピアの二つの母国を持ち、そこから「何事にも感謝すること」と「相手への思いやり」の大切さを学び、その学びを世界中にある課題を解決するために人々に広めて、多くの人が自分の人生に希望を持ち、笑顔で暮らせる世界にしたいという大きな夢を持っていることは心強く、嬉しく思い、心から応援いたします。埼玉キワニスクラブは未来を担う世界の子どもの幸せのために社会奉仕活動を行っています。世界中の国の懸け橋となることを期待しています。

「ポジティブネット　YMCA」特別賞
筑波大学附属坂戸高等学校 3年
工藤　真尋さん

「スマホを置いて外に出よ！」と社会課題に目を向けて、課外やボランティアの場に出向いて実体験を通して社会を視る目を養う大切さ、そしてその目を向けた社会課題が、次代を担う子ども達の日常であったことが、「互いを認め合い、高めあうポジティブネットのある豊かな社会」と「みつかる・つながる・よくなっていく」というYMCAのスローガンに合致したことにより選出いたしました。次世代を担う青少年が、自分の思いを地域や社会に発信し行動していくことを、埼玉YMCAは支え続けていきます。

「WATABOKU（わたぼく）」特別賞
春日部市立武里南小学校 6年
田中　まり奈さん

「優しい心の形」は『心づかい』について田中さんご自身の松葉杖生活の実体験にもとづいて感謝と優しさを考察し、ご自分の心の変化と共に自然に芽生えた『思いやりの言葉と行動』を描写した素晴らしい内容でした。発表の最後に、温かい「心づかい」は人から人へと広がるもので「その輪が世界中に広がりますように」とまとめられた田中さんのような思考が、まさに世界の平和につながると改めて感じました。

この度は受賞誠におめでとうございました。

「輝け・明るく・裕（ゆたか）に」特別賞
埼玉県立和光国際高等学校 2年
浅田　璃子さん

私たち国民の環境に対する意識が徐々に強くなっていることに加え課題として世界各国の意識の違いに課題があるのかもしれないと感じました。日本では「ごみ」として捉えているものは海外では使用済みの紙など以外の多くがリサイクル資源である意識の違いと各国の環境問題への取組の違いを比較されていることが印象的でした。自分たちの意識を変え、環境問題に向き合い正しい知識を身に着けるという言葉に共感しました。

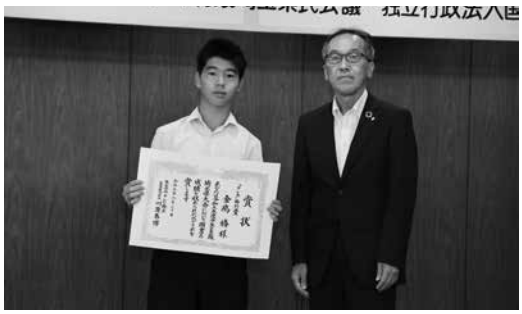
「日本は環境問題に対してもっと根本的に取り組むべき」の主張に企業としての取組を改める機会にもなりました。夢や未来の姿に向かい、実現に向けた自信と決意のある作品が希望のキーワード「輝け・明るく・裕（ゆたか）」となるように特別賞を贈りました。

「Next Action 埼玉りそな銀行」特別賞
春日部市立武里中学校 2年
相澤　心花さん

小さい頃からのご経験を通じ、周りの方への優しさや感謝の気持ちが育まれたのでしょう。「誰のせいでもないよ」というお母さまへの言葉にはとても心打たれました。

経験から将来の目標を掲げ「誰よりも周りを見て行動し、気遣いをする」と、目標に向かって何ができるかを考え、日常で実践されていることに、強い気持ちを感じます。

埼玉りそな「Next Action」賞は、将来に向かって考え、優しさと強さを持ち行動する相澤さんに相応しいです。心から応援しています。



「テレ玉」特別賞
日高市立高萩中学校 3年
金嶋　椿さん

帰省先の三重県の海釣りでの気付きから、環境問題に興味を持ち、ドイツの石で作られた家の昼間涼しく過ごせる工夫など、その他の事例も丁寧に調べ、広く深く学んでいく。それを形にした金嶋さんの発表は、非常に説得力がありました。

昔の人の知恵と、現代の技術の両方を使い、地球の豊かな自然を守っていきたいと主張する金嶋さんが、今後も「温故知新」の観点から活動されることに、大いに期待して「テレ玉」特別賞に選出させていただきました。

「埼玉新聞社」特別賞
坂戸市立浅羽野中学校 3年
金　洋平さん

金さんの主張は埼玉愛にあふれていました。何もないのが埼玉県の最大の特徴などと言われますが、埼玉県を歴史、自然、食文化の三つの視点から掘り下げ、調べ、実際に確認した上で、積極的にＰＲする姿が非常に印象的でした。埼玉県で育ったことに誇りを持ち、これからも「彩の国」のように「彩り」がある美しい「国」としての埼玉県を全国に発信していってください。

講　評

埼玉新聞社編集局長
砂生　敏一

発表者の皆さん、本日はお疲れ様でした。そして、各賞の受賞、誠におめでとうございます。

また、会場にお越しになって発表を聞いていただいた保護者、関係者の皆様、本日はありがとうございました。

今回の発表につきまして、全体を通して感じたことは、どの発表もテーマこそ異なりますが、一番伝えたいこと、訴えたいこと、知ってほしいことがはっきりしており、主張が非常に明確でした。特に改めて気付かされたことは、「人は一人では生きていけない、支え、支え合う存在である」ということです。今も続いていますが、海外では紛争があり、日本では昨年、衝撃的なテロがありました。日々、心ふさぐ事件や事故が絶えません。だからこそ、互いを認め合い、互いを尊重し、多様性を受け入れる社会生活が今、最も重要であり、求められていることではないでしょうか。発表でも以上のようなことをテーマにした主張がありました。

審査は発表内容と表現力、発表態度の２点の合計得点で各賞を決めさせていただきました。どの方の発表も素晴らしく、力強く、点数をつけるのに迷いました。

小学生の部は、日頃の学校生活や日常生活を通して人の優しさや思いやりに触れながら、自分自身も他者を思いやる気持ちが醸成され、実際に困っている人がいたら手を差し伸べ、実践していこうという強い意志が伝わってくる主張が多かったです。当たり前のようにある、給食の１コマからジェンダーギャップを感じたり、自分の習い事から世界平和を切に願う主張も印象に残りました。

中学生の部は、重い病気や本来であれば黙っておきたいつらい体験を余すことなく伝えながら、その体験を踏まえて「かけがえのないものは何か」、「大切なものは何か」を追求する姿に感銘を受けました。認知症の祖母と向き合う中で、介護の問題に関心を高め、中学生らしく自分の将来の夢を描いたり、環境問題や埼玉県の良さについてしっかり考えるなど内容も多様でした。

高校生の部は、データや数字を盛り込んで非常にメッセージ性のある主張に説得力を感じました。身近な経験から社会や現代に目を転じ、先入観を持たず、当たり前のことについて一歩立ち止まって「もしかしたらこれはおかしいのではないか」と疑ったうえで自分なりに考察し、実際に行動に移していこうという姿勢が共通していたように思います。より良い世の中、日本、また世界にするにはどうするべきなのか、特に環境問題についてその処方箋を示している点が高校生らしいと思いました。

最後になりますが、この大会の開催に向けて早くから準備されてこられました主催者の方々の御尽力に改めて感謝申し上げます。また、日頃から児童・生徒さんを支え、見守っていただいている保護者をはじめ、学校関係者の皆様、青少年の健全育成に携わっている方々、御協力いただいた企業関係者の皆様に改めて感謝と敬意を表します。今回発表された児童・生徒の皆さん、ぜひ夢に向かって力強くチャレンジしていってください。これからの時代を担う児童・生徒さんの明るい未来を祈念して、講評とさせていただきます。

令和５年度少年の主張埼玉県大会の概要

１　主催

埼玉県･埼玉県教育委員会･青少年育成埼玉県民会議･
独立行政法人国立青少年教育振興機構

２　協賛

Humming Bird未来基金･埼玉キワニスクラブ･公益財団法人埼玉YMCA･
羽石電氣工業株式會社･森乳業株式会社･株式会社埼玉りそな銀行･
株式会社テレビ埼玉･株式会社埼玉新聞社

３　後援（順不同）

埼玉県市長会･埼玉県町村会･埼玉県市町村教育委員会連合会･
埼玉県公立小学校校長会･埼玉県中学校長会･
(一社)埼玉県私立中学高等学校協会･埼玉県高等学校長協会･
埼玉県特別支援学校長会･埼玉県ＰＴＡ連合会･
埼玉県高等学校ＰＴＡ連合会･埼玉県特別支援学校ＰＴＡ連合会･
埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会･読売新聞さいたま支局･
ＮＨＫさいたま放送局･FM NACK５

４　応募作文数

小学生の部	17,141点
中学生の部	19,000点
高校生･一般の部	3,042点
計	39,183点

５　大会の概要

（日時）令和５年８月２０日（日）　午後１時００分～４時４５分
（場所）さいたま共済会館　大ホール
（進行）
- ･開会
- ･挨拶（青少年育成埼玉県民会議副会長　前島　富雄）
- ･主張発表
- ･ミニコンサート
- ･審査結果発表
- ･講評（株式会社埼玉新聞社編集局長　砂生　敏一）
- ･表彰式
- ･閉会

6　審査員（敬称略、順不同）

（1）第一次審査員

小学生の部・中学生の部　（令和5年7月3日（月）審査実施）

荻田　哲男　　埼玉県退職校長会
小島　健司　　埼玉県退職校長会
羽島　隆夫　　埼玉県退職校長会
眞嶋　廣久　　埼玉県退職校長会

高校生・一般の部　（令和5年6月26日（月）審査実施）

伊古田　陽子　埼玉県高等学校等退職校長会
小林　　一郎　埼玉県高等学校等退職校長会

（2）第二次審査員

加藤　雅教　　埼玉県公立小学校校長会 幹事長
豊田　清明　　埼玉県高等学校長協会 会長
大竹　雅樹　　埼玉県高等学校PTA連合会 会長
砂生　敏一　　株式会社埼玉新聞社 編集局長
前島　富雄　　青少年育成埼玉県民会議 副会長
柿沼　トミ子　青少年育成埼玉県民会議 副会長
芦澤　吉一　　青少年育成埼玉県民会議 副会長
青木　孝夫　　埼玉県教育局県立学校部長
檜山　志のぶ　埼玉県県民生活部県民共生局長

令和5年度　賛助会員の皆様

青少年育成埼玉県民会議は、次代を担う青少年の健全育成のために以下の企業・団体に賛助会員として御協力をいただいています。（50音順）

赤城乳業㈱
アゲインメディカルクリニック
㈱アドアニモ
㈱アドエモ
アルディージャ後援会
㈱アルビノ
㈱イワコー
浦和北ロータリークラブ
EITO合同会社
エファタ㈱
㈱エフエムナックファイブ
エモーショナルリンク合同会社
化研興業㈱
カネパッケージ㈱
関東自動車㈱
関東信越税理士会埼玉県支部連合会
㈱Q.E.D.パートナーズ
㈱キューブコンサルティング
ゲーテメンズクリニック
㈱サイサン
（学）埼玉医科大学
埼玉キワニスクラブ
埼玉県小売酒販組合連合会
埼玉縣信用金庫
埼玉県信用金庫協会
埼玉県ボウリング場協会
㈱埼玉シミズ
㈱埼玉新聞社
埼玉信用組合
埼玉トヨペット㈱
埼玉ホーチキ㈱
㈱埼玉りそな銀行
㈱シナプルリンク
㈱篠塚製作所
㈱シュアーイノベーション
㈱秀飯舎
（学）城西大学
Star sea
㈱スライヴケア
生活衛生同業組合埼玉県映画協会
生活協同組合コープみらい
㈱Soelu
たつみ印刷㈱
㈱タンタカ
㈲つじ
㈱テレビ埼玉
㈱TOCREATEIT
東洋パーツ㈱
㈱東和銀行
中沢乳業㈱
㈱ナゴウェブ
日本生命保険相互会社さいたま支社
㈱日本標準統合物流センター
㈱ハイデイ日高
羽石電氣工業㈱
Humming Bird未来基金
東日本電信電話㈱　埼玉事業部
㈱ビズヒッツ
平田精工ジャパン㈱
㈱広野
㈱Prime Partner
ベストセレクション㈱
本田技研工業（株）埼玉製作所
増幸産業㈱
みはし㈱
㈱武蔵野銀行
㈱メディアグロース
望月印刷㈱
森乳業㈱
㈱八木橋
ヤマノブログ編集局
㈱ラパヌイ
リーディングテック㈱
㈱LIFRELL
㈱WACARU NET
ONEWALK㈱

令和５年度「家庭の日」ポスターコンクール入賞作品

優秀賞（小学生の部）

「楽しい外食」
三郷市立立花小学校　5年　矮松　莉奈さん

優秀賞（中学生の部）

「ガーデニング」
越谷市立千間台中学校　3年　染谷　妃璃さん

優良賞（小学生の部）

「かていの日ポスター」
飯能市立奥武蔵小学校　2年　小澤　結さん

優良賞（中学生の部）

「家庭の日（野菜の収かく）」
春日部市立武里中学校　1年　古橋　真央さん

優良賞（小学生の部）

「久しぶりだね　おばあちゃん」
三郷市立新和小学校　5年　大谷　芽生さん

優良賞（中学生の部）

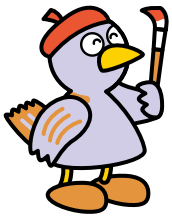
「家族から愛のパワー」
三郷市立前川中学校　2年　益子　美海さん

令和５年度

「家庭の日」ポスターコンクール 最優秀賞・特別賞作品

最優秀賞（小学生の部）

「楽しかった　グランピング」
三郷市立前谷小学校
6年　松井　心音さん



埼玉県マスコット「コバトン」

最優秀賞（中学生の部）

「大切にしよう家庭の日」
春日部市立武里中学校
1年　高橋　理央さん

埼玉県マスコット「さいたまっち」

「埼玉県映画協会」特別賞

「かぞくでドライブ」
春日部市立藤塚小学校
2年　平栗　逢輝さん

「株式会社イワコー」特別賞

「夏はやっぱりかきごおり」
三郷市立幸房小学校
1年　馬上　日依さん

「テレ玉」特別賞

「昼寝現場目撃」
桶川市立桶川西中学校
2年　佐藤　杏咲さん

「埼玉県美術教育連盟」特別賞

「盆踊り」
さいたま市立大宮別所小学校
1年　和泉　佑哉さん